
ガラシャを想ふ

六文

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ガラシヤを想ふ

【Nコード】

N9464K

【作者名】

六文

【あらすじ】

お玉が亡くなってから数十年、夫忠興はお玉との愛しい想い出を振り返っていた。許しを乞う忠興の元に訪れたのは……。

「お玉・・・」

細川忠興はぼうと庭を眺めた。

齢八十二となった顔に嘗てのはりはなく、皺のある厳格な老人の顔となっていた。

お玉はもとより、もう父の幽斎もいない。

興秋も自分が自害の命を下した。

弟の興元ももうこの世にはいない。

はて、わしは何人殺したであろうか？

「お玉・・・」

自分は呆けてしまったのであろうか。

「お玉」とその言葉しかでてこないことに自嘲した。

お玉に夢中になっていたころ、お玉がキリシタンとなってしまったころ、お玉が石田方に人質となれと脅され、自害「こういうのはおかしいのかもしれない」したころ。

忠興はお玉との思い出が自分のなかを駆け巡るのを感じた。

愛していた。

狂おしいほどに。

今思えば、すれ違いをおこしていたのかもしれないと思った。

年をとると見えないことが見えてくる。

忠興はそう理解した。

散りぬべき 時知りてこそ 世の中の 花も花なれ 人も人なれ

この辞世の句をお玉がよんだことが昨日のことのように感じられる。
あの時、自分はどんな思いであったのだろうか？

お玉はどんな思いであつたのだろうか？
そんな気持ちは思い出せずとも、詩を詠んだ声だけははっきりと聞こえる。

お玉が変わつたのは、天主デウスを信じてからだつた。

謙虚で忍耐強く、穏やかになった。

わしは変わらなかった。

いつまでも、お玉に自分の想いのたけのみをぶつけていた。

忠興は自分の所業を思い出すとたんに、涙を流しそうになった。

あの頃の自分はそんな愛し方しか、知らなかったのだ。

「いかな。年をとると涙もろくなる。」

忠興は再度お玉を思い出そうと試みた。

この頃になって、過去のことが何度も蘇ってくる。

それが何を意味するのかを忠興は知っていた。

「わしもそろそろか・・・」

己は戦人であるから、後悔はしない。

といつても、ふと罪悪感に苛まれることがあつたりもするのが人間である。

だから、時に都合よく神を信じたりもする。

嘗て、お玉を斬ると言つた家臣に、「お玉を斬るものはわしが斬る」と豪語したことがあつた。だが実際には、忠興が殺したも同然の死をお玉は迎えた。

「わしをわしが斬るべきであつたな」

ぽつりと忠興はまた呟いた。

―自害は罪となります。―

「お玉!？」

風にのって懐かしい声が聞こえた。

―キリシタンはその十戒を守るものです。―

そうだ。

お玉はキリシタンであつたな。

洗礼を受けて、ガラシャの名を与えてもらっていた。

恩寵、聖寵という意味だとお玉から聞いたな。

―殿、殿は許されたいのですか?―

忠興は静に頷いた。

―遅くはありません。

デウス
天主様は、悔いるものに許しを与えるために存在するのです。―

「お玉。」

そちらにいったら祈ろう、共に。」

お玉はその美しい顔に微笑をうかべた。

―殿は天主様デウスを信じますか？―

その答えに忠興は何と答えたかは覚えていない。
その翌年、八十三歳にして忠興はその生涯を閉じた。

（後書き）

これは、三浦綾子さん作の細川ガラシャ夫人を参考とさせていただいております。

ですので、皆様が記憶されておられるお二人とは少し違う感じがされるかもしれません。

もしも、興味があれば是非三浦綾子さんの作品を読んでみてください！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9464k/>

ガラシャを想ふ

2011年10月5日19時22分発行